

第4回留学報告書

二年目の振り返り

前回のレポートでは Teaching Assistant の経験を報告したので、本レポートでは二年目で多くの時間を費やした専門科目を中心について記述していきます。経済学部の博士課程では、一年目に経済学の全分野において重要となる基礎科目を受けた後に、二年目に学生個人の興味に合わせて専門科目を受講します。私の場合は Financial Economics と Econometrics を選択し、そこから6つの授業を履修しました。個々の授業を説明していくというよりも、ここでは特に印象に残った二つの授業について報告をします。

一つ目の授業は Econometrics の授業で、マクロ経済学でよく使われる時系列分析の最先端のトピックスを扱うものでした。そこでは、時系列データを使った因果関係を識別方法、それを実行する際の様々な計量・統計手法の評価、時系列データの次元を減らすための因子分析、等々が解説されました。授業を取る前からこの辺りの話題には興味があり、今後の研究にも役に立つ内容を身につけることができました。

この授業を通じて内容面で勉強になったことはもちろんですが、私がさらに感銘を受けた点は教授の授業の組み立て方でした。分野のそのモチベーションと王道のトピックスが丁寧かつ素早くカバーされ、教員自身の研究成果から得られた知見が提供されることで、教授が思うその分野の現在地と課題をうかがい知ることができました。この分野の先端的な研究はどのような問題に取り組んでいるのか、なぜそれを解決することが重要なのか、教授自身の研究は其中でどのように中心的な問題に貢献しているのが明快に説明され、自分もこのようなことができる研究者になりたいと思いました。彼はこの分野の若手スターであり、年齢がそう離れていないという点もそうさせたのかもしれません。この授業が受けられたことで、より一層留学した甲斐があると感じられました。

二つ目は Financial Economics の授業です。ここでは連続時間の確率過程とそこでの解析学、マクロ経済学や資産価格理論への応用が解説されました。先の Econometrics の授業と同様に、内容だけでなく、教授のこの分野への熱意に感心しました。通常は2時間の授業なのですが、教授にはこれでは話し足りないらしく、3時間の授業となりました。授業中も学生が途中で休憩をお願いしない限り、3時間を通してやりきってしまうほど授業に熱中していました。授業の後に「今日は途中休憩がなかったですね」と言うと、教授は「休憩が欲しい時は言ってくれ。私は自分で授業を止めることはできないんだ」などと言いついてきたり、「補講をしたいのだけど、昼間が厳しいなら夜の9時からでも構わない」などの発言をし、正直少し戸惑うこともありました。しかし、裏を返

せばそれだけ自分の分野の話をするのが好きだということなので、研究分野に対してはこのくらいの気概があるべきなのだと思います。

三年目以降はこの二人の教授から学んだ姿勢を忘れずに研究に向かっていきたいと思います。二年目の専門科目や先行研究の分析を通じて、研究指導をお願いする教授も私の中で固まってきたことも二年目の成果だと思います。最後になりますが、このような経験ができていることはひとえに御財団からのご支援のおかげでございます。誠にありがとうございます。特に、コロナウイルスの影響下にある現在の状況で、これまでの二年間の御財団からのご支援がますます重要になってきました。この恵まれた環境を生かして、今後のリサーチステージを意義のあるものにしていきます。